



松江赤十字病院における病診連携に関わるアンケート結果

所在地	診療科	年代
横北 10	内科系 16	20歳代 0
横南 13	外科系 5	30歳代 0
市外 3	歯科 5	40歳代 2
		50歳代 10
		60歳代 9
		70歳代以上 5

当院を紹介される理由

項目	回答	横北	横南	市外
松江赤十字病院の医療内容を信頼している	はい	10	13	3
	いいえ	0	0	0
	どちらともいえない	0	0	0
	不明	0	0	0
患者・家族の希望	はい	10	11	2
	いいえ	0	1	0
	どちらともいえない	0	1	1
	不明	0	0	0
患者のお住まいとの距離	はい	8	4	1
	いいえ	0	5	1
	どちらともいえない	2	4	1
	不明	0	0	0
面識のある医師が存在している	はい	10	13	2
	いいえ	0	0	0
	どちらともいえない	0	0	0
	不明	0	0	0
信頼できる医師・スタッフがいる	はい	10	12	3
	いいえ	0	0	0
	どちらともいえない	0	1	0
	不明	0	0	0
紹介するに適した診療科がある	はい	10	13	3
	いいえ	0	0	0
	どちらともいえない	0	0	0
	不明	0	0	0
他に紹介する医療機関がない	はい	0	2	0
	いいえ	9	10	3
	どちらともいえない	1	1	0
	不明	0	0	0
医療設備が充実している	はい	9	10	3
	いいえ	0	0	0
	どちらともいえない	1	3	0
	不明	0	0	0
受診日までの待機日数が短い	はい	4	3	2
	いいえ	2	1	0
	どちらともいえない	4	9	1
	不明	0	0	0

報告書・返事について

項目	回答	横北	横南	市外
「受診のお知らせ」の返信は適切な期間で届いていますか	届いている	8	9	3
	だいたい届いている	2	4	0
	普通	0	0	0
	あまり届いていない	0	0	0
	全く届いていない	0	0	0
	不明	0	0	0
「経過報告書」・「診療情報提供書」の返信は適切な期間で届いていますか	届いている	5	6	2
	だいたい届いている	4	7	1
	普通	1	0	0
	あまり届いていない	0	0	0
	全く届いていない	0	0	0
	不明	0	0	0

共同利用について

項目	回答	横北	横南	市外
手術室を利用していますか	利用している	0	0	0
	たまに利用している	0	0	0
	利用していない	10	13	3
	不明	0	0	0
高額医療機器を利用していますか	利用している	2	3	0
	たまに利用している	0	3	0
	利用していない	8	7	3
	不明	0	0	0
病床を利用したいですか	利用したい	0	1	0
	使えるのであれば利用したい	0	0	0
	どちらでもない	7	6	1
	あまり利用したくない	0	0	0
	利用したくない	3	6	2
	不明	0	0	0

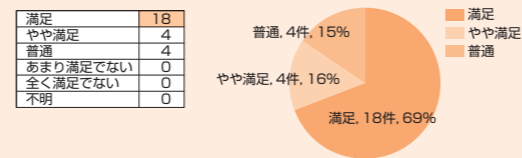
救急外来の対応について

項目	回答	横北	横南	市外
救急外来受診の対応について満足していますか	満足	5	7	2
	やや満足	2	3	1
	普通	3	3	0
	あまり満足でない	0	0	0
	全く満足でない	0	0	0
	不明	0	0	0
緊急入院の対応について満足していますか	満足	5	10	1
	やや満足	2	1	2
	普通	3	2	0
	あまり満足でない	0	0	0
	全く満足でない	0	0	0
	不明	0	0	0

研修会の開催について

項目	回答	横北	横南	市外
赤十字病院で開催している研修会に参加していますか	参加している	0	0	0
	だいたい参加している	1	0	0
	たまに参加している	2	5	0
	あまり参加していない	4	6	1
	参加していない	3	2	2
	不明	0	0	0
どのような研修会を希望されますか(複数回答あり)	最近の治療動向	5	8	3
	症例検討	3	2	1
	一般病態の講義	4	4	0
	その他	1	1	0
	不明	0	0	0
	不明	0	0	0

当院との連携について



アンケート自由記載意見

- ・紹介先の科から他科に転科した場合、転科先より当院に疾病経過の報告が途絶えてしまう。
- ・救急対応に感謝しています。
- ・入退院日や転科の日、手術実施日が分かれば教えて下さい。患者さんが最終的に当院に帰って来ない場合(他院へ紹介・入所される場合)にも、経過について連絡が頂けると嬉しいのです。
- ・搬送の付き添いを、早期に帰していただきたい。
- ・救急受診について満足と回答したが、実際は、実情を知らないので、答えようがない

今年も「松江赤十字病院における病診連携に関わるアンケート」にご協力いただきありがとうございます。アンケートはQRコードを用いてインターネット上での回答形式で実施させていただきました。いただきましたご意見・ご要望を参考に改善に努めてまいりますので、今後とも連携のご協力をお願い申し上げます。

れんけいだより



年頭のあいさつ

院長 大居 慎治



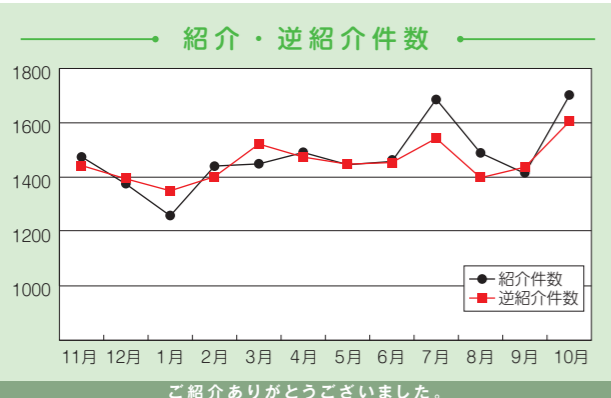
新年明けましておめでとうございます。

世の中IT活用やデジタルトランスフォーメーション(DX)の話題に溢れています。その中でも病院、診療所や薬局、介護の現場との間で患者データなどのやり取りが可能になるシステム作りが進んでおります。

昨年12月からは新たに健康保険証が発行されなくなり、マイナンバーカードに移行していくことになりました。近い将来全国各地に置かれるデータベースに個人の医療データすなわち3文書・6情報と呼ばれる診療情報提供書、キー画像等を含む退院時カルテのまとめ、健康診断結果報告書、傷病名、アレルギー情報、感染症情報、薬剤禁忌情報、検査情報(救急時に有用な検査、生活習慣病関連の検査)、処方情報が集められ、全国の医療機関で利用できるようになります。自治体とも連動して健診データの利用やワクチン接種歴などもわかるようになります。国はこのような健康医療サービスのネットワークを2030年頃に完成させることを見込んでおりますが、まだまだ時間がかかりそうです。

一方で鳥根県にはローカルな医療情報ネットワーク「まめネット」が既にあり今すぐに利用ができます。出雲地区は県立中央病院を中心に利用が進んでいますが、松江地区はさほど導入が進んでいませんでした。導入に医療機関の電子カルテとネットワークを繋ぐためのコストがかかるためでした。それでも県が補助を出していただくことにより少しずつ整備が進んでいます。患者さんにもメリットがあって、国が準備している医療情報よりもさらに詳しい情報—例えば内視鏡、CTやMRIに代表される画像情報やもっと多くの検体検査情報が他の医療機関で見ることができ、無駄な検査を省くことも可能になります。

昨年12月に松江市立病院とまめネット利用促進とマイナンバーカード利用促進のキャンペーンを行いました。これを機会にまめネット導入・登録を多くの方々をお願いしたいと思います。



松江赤十字病院 地域医療連携課

〒690-8506 松江市母衣町200番地
TEL 0852-32-7813 FAX 0852-27-9261

第18回 地域医療従事者スキルアップセミナー



社会福祉士 樋野 耕平

当院は平成25年から虐待対策委員会を設置し、虐待対応や研修会開催による意識啓発に取り組んできました。近年、研修会開催の効果もあり、虐待に関する相談件数は増加傾向にあります。

昨年度は、DVや虐待について行政や地域包括支援センターへ繰り返し相談するも非該当と判断されたまま状況が改善していない事例やケアマネ、親族が虐待に気付いても相談に繋がっていない事例も有りました。また対応事例の6割において介護者が心身に不調を抱えている状況があり、介護者の介護力や理解力を踏まえた判断や対応が求められました。

複雑な事例や対応件数増加に対応するため、虐待対策委員が事例概要を共有できる仕組みの整備や市や地域包括支援センターと当院の判断や支援を評価する3者連絡会の提案、対策委員を増員し虐待種別（高齢、子ども、DV、障がい）を超えて検討するなどの体制強化を図りました。これらの取組の効果として、医学的観点や多様な視点から検討が可能となり、虐待通報の要否に留まらず、対応や支援について積極的な助言や提案が得られるようになりました。

今後は、虐待につながる可能性のある事例への早期介入や客観的事実に基づく予防的対応にも取り組み、地域の皆さんと連携しながら患者・家族の尊厳や生活が守られるよう努めていきたいと思います。

脳卒中リハビリテーション看護認定看護師 宇山 真弓

摂食嚥下サポートチーム (SST: Swallowing Support Team) のお話しをする機会をいただきました。

SSTは、患者さまが安全で快適に食事ができるよう支援する多職種連携のチームです。チームには、医師・看護師・言語聴覚士・管理栄養士・歯科衛生士が参加しています。メンバー各自の専門性を発揮し協働して、嚥下スクリーニングシートやフローチャートを活用して患者様一人ひとりに合った食事形態や介助方法をラウンドとカンファレンスを行い提案しています。患者さまに直接食事介助を行う看護師の不安が少なく介助できるように、注意点や判断するポイントを共有し、継続して嚥下評価ができるようにラウンドで助言しています。また、コース研修会等の開催を通じて看護師のスキルと知識の取得と向上を目指しています。

今後は、SSTの活動効果をさらに高めるため、活動した結果を数値化し検討する事やチームメンバーのスキル向上を目指す事が課題です。より質の高いチーム医療を目指し活動していきます。

「患者さまが安全に美味しく食べられる」という目標のもと、地域の皆様と一緒に患者さまやご家族の笑顔を支え続けていきたいと思っています。



リハビリテーション技術部 言語聴覚士 西本 祥久

近年、在院日数の短縮や医療機能の分化・連携がより一層求められています。一方で患者さんの治療やリハビリに十分な時間が割けず、適切な環境調整が行えないまま退院になるケースを多々経験してきました。そのような患者さんは短期間で再入院となることが多いように感じます。セミナーでは誤嚥性肺炎の予防と再発防止というテーマでの講演で、連携を絡めたお話しをさせて頂きました。各職種とも日々増加する業務に追われ、十分な退院支援を行うことが困難な状況にあります。

まずは入院時における施設と病院間での情報共有の質を高めることで、治療方針や目標を明確にし、少ない在院日数の中でも、退院後に持続可能な環境設定を行う事で再発予防につながると考えます。

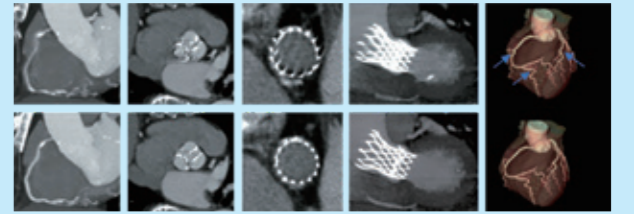
今回参加していただいた施設の方からも情報提供の内容について熱心に質問を頂き、ありがたいことに今回お話しした内容についての追加講演の依頼も頂きました。当院の希望だけではなく、施設や在宅の環境も踏まえた上で、効果的な情報提供が行えるよう情報提供の内容をすりあわせていく必要があると思います。

それぞれの住まいで、楽しく安全に食べ続けていただけるよう、今後も医療・介護間での連携をとっていきましょう。

最新高機能X線CT装置『Revolution Apex Power Core』稼働

2024年12月23日に稼動したX線CT装置の特徴を紹介します。

- ①一回転で最大16cm (旧装置は4cm)…
高速撮影により撮影時間を短縮 頭部を1~2秒、全身を3~4秒で撮影 (小児や高齢者など安静が保てない場合に効果)
- ②心臓CTの適応拡大…
高速+補正技術で高心拍・不整脈でも高精度な検査が可能
- ③人工知能技術を活用した画像処理…高画質と被ばく低減を両立
- ④2種類のX線を利用した検査…造影剤の減量、脆弱性骨折の検出



上段：旧装置 下段：新装置

高性能な装置を最大限活用できるよう一丸となって取り組みます。

第66回 地域医療勉強会

11月13日・14日、第66回地域医療勉強会を開催しました。今回は『認知症の方の行動心理状態を考える～困りごとを共有してこれからの支援に役立てよう～』というタイトルで認知症看護認定看護師の佐野英津子看護師に講義をいただきました。講義の内容は脳の障害により生じる「認知機能障害」と、生来の性格や生活背景など個人の特性や環境などが影響して反動的に生じる「行動・心理症状 (BPSD)」があることを冒頭で説明されました。そしてBPSDの症状に対して、どのような対応をしていけばよいのか行動別に詳しく話されました。地域で生活されている認知症の方に対して身近な存在であり、ケアをされている受講者に対して“この人は私の見方だ”と思ってもらえるよう、その方に関心を寄せ、その方の思いを理解しようとする事が大切であることを話されました。参加者のアンケートで「認知症の方と、介護される家族の方に寄り添うこと、どちらの方も想いがありそれを理解、共感、承認することが大切だと学びました」等のご感想をいただきました。今回の学びを現場で生かしていただければと思います。たくさんのご参加をいただきましてありがとうございました。次回は2月19日・20日開催予定です。

まめネット ~松江赤十字病院と松江市立病院の取り組みについて~

松江市立病院と松江赤十字病院で、よりよい医療サービス提供を目的に連携カルテを活用した病院間での連携を強化する取り組みについて共同発表しました。

当日メディア取材があり、令和6年12月6日付の山陰中央新報にも掲載されました。

場所 松江赤十字病院 日時 令和6年12月5日 16:00

